

2013年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2013年12月1日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

第四十一回埼玉地区教会全体修養会

西川口教会
金田 佐久子

二〇一三年八月五日から七日まで
第四十一回埼玉地区教会全体修養会
が開催されました。

修養会の主題は今年度の地区主題
と同じく「主にある交わりを深めよ
う」、副題は「共に生きる生活」、講師
は吉祥寺教会牧師の吉岡光人先生、
会場は軽井沢南ヶ丘倶楽部でした。
参加者は七十五人（地区内二十三教
会）、子ども九人、中学生一人、高校
生一人を含みます。

吉岡先生には二回の講演をしてい
ただきました。参加者の感想文から
講演の様子が少し伝わるのではない
かと思えます。心深く探られ、慰めに
満ちた言葉をいただきました。

大人たちが講演と分団の時間を過
ごしている間、子どもたちは、ルカに
よる福音書からザアカイとイエスさ
まの出会いの物語を学びました。三
日目の全体会では寸劇で発表をして
くれました。

参加者からのアンケートを受けて
修養会委員会で課題に感じているこ
とを書かせていただきます。

・参加者が減っているのは、地区内
教会が高齢化し、経済的に厳しいか
らではないか。

・地区教会全体修養会であるので、
参加教会数が三十を超えるくらいに
なることを願う。



・日程を早めに伝えてあるので、各
教会で、行事の日程を調整してい
ただけないか。教会から一人でも送り
出していただけないか。牧師の参加
費を援助していただけないか。特に、
埼玉地区に新しく着任した教職の参
加を願う。
(修養会委員会委員長)

聴くという奉仕

埼玉新生教会 今村 静子

主題の「主にある交わりを深めよ
う」にひかれました。

交わりをのときを持つのは、かなり
意識していないと、機会を逃がして
しまいます。ですから分団の時間、部
屋に戻ってくつろいだときは貴重で
した。分団で順番に考えを話す時は、
整理しながら、言葉を選びながら多
少の緊張のなかで話すことが出来ま
すし、他の方の話しも受け止めるこ
とがしやすいです。

しかし、普段聴くとき「私はこう思
う」という気持ちを横に置くように
心がけますが、それでも「私は違う」
「そうじゃないでしょう」と思いな
がら聴いている自分がいます。この
傾向はかなり克服できていますつも
りでしたが、私のなかですっかり生き
ているのに気づかされました。

講演のなかで、ひとりよがりの人
生にならないように「聴くという奉
仕」は大切とありました。「この人
は、私に何を訴えようとしているの
か」を聴くことによって、心の交流
が生まれること。自分の問題に向き
合うことによって、他の人にも向き
合えるようになる、ということなど
大切なことを、改めて教えていた
いた三日間となりました。



◆当教会
に「裏庭クラ
ブ」ができ
た。二年前、最

寄りの地下鉄駅から徒歩三分
の当教会に、多くの教会のご支
援を頂き、念願の駐車場が隣接
地に与えられた。その際、残土を
裏庭に盛り土した。ここに「食べ
られる物を植えよう」というあ
る姉妹の提案から「裏庭クラブ」
が発足。有志の会で、会費無料、
苗・肥料などはすべて自腹。会
員は自主申告制。正式会員数、不
明。

◆一年目は、プチトマトを植
えた。まずまずの収穫。その他に
へちま、ゴーヤを植え、グリーン
カーテンを目指したが、隙間だ
らけのカーテンになった。二年
目、プチトマトは豊作。ナス、
ピーマンも教会の昼食の食卓に
のぼった。トマトは豊作すぎて、
夏の平日、親子で収穫にきても
らった。

◆「わたしは植え、アポロは水
を注いだ。しかし、成長させてく
ださったのは神」を実感してい
る。

◆因みに筆者はただの「食べ
る人」。
(田中)

教会全体修養会に

参加して

聖学院教会 八木 和子

主題と吉岡光人先生に期待を持って参加いたしました。おなじみの面々に再開する愉しみもあり、環境とお食事の魅力もあります。

講演Ⅰは主イエスの教え、使徒たちの宣教から、またボンヘッファーの「交わりの生活」を手がかりとして他者との交わり、隣人に奉仕することを学びました。講演Ⅱでは心を開いて人の声を聞くことの深い意味と重要性を教えられました。また自分自身の問題としつかり向き合えば隣人への奉仕はできないことも知りました。教会での奉仕は主に仕えるという意味があること。なにげな



く「聞いている」のではない、共にそこにいて、どんな小さな奉仕も神によって与えられた、尊い働きであることを忘れてはいけない、と教えられました。私自身カウンセラーとは縁遠いものですが、深く学ばれた講師のお話を聞き、キリスト者であるからこそ、真のカウンセリングが出来るのか、と認識を新たにいたしました。教会



の中で交わりはこのように深い意味を心にとめ、日々祈りを持って行わねばならないのでしょう。一日目の夜は笑いとともに、笑顔の大切さをお互いに分かち合い、二日目の夜は静かな夕べの交わりを感じました。会場も時期も他にふさわしいところはないと思います。私



も年齢を重ねると場所に不便を感じるかもしれません。が、二年に一回、皆さんに参加を呼び掛けて、出来たら続けていたきたいと、感謝と共にお願いをいたします。

子供プログラム報告

上尾合同教会 真田 美智子

一日目、子ども達は目と目を合わせず話をしていましたが、日に日に表情や、目の輝き、取り組む姿勢が変わってきて、目をしっかりと見て話を聞き、言葉を交わすようになってゆきました。二日目の岩佐先生の「子どもと礼拝」では、物音ひとつたてず、深い静けさの中で聞いていたのには驚きました。



朗読劇の練習の時にも、字が読めなかったり、恥ずかしがったり、声が出ない友達のために、ほめたり、励ましてくれて、一緒にどうすればよいかを考えてくれてうれしく思いました。 蒔かれた種は必ず聖霊のお働きによって成長していきます。子ども達は大人の付属としてではなく、子ども達の特別なプログラムを用意していただくことを願います。 何よりも楽しかった。子ども達も「楽しかった!」と言ってくれました。子ども達にも私たちの楽しい雰囲気、伝わったのではないのでしょうか。

中学・KKS・青年キャンプ報告

坂戸いずみ教会 山岡 創

庭の露天風呂から見上げる夜空。そこで語り合う「心の夜空(闇)」と救い。お湯はちよつと温かったけれど、とてもぜいたくな時間を過ごさせてもらった。

二〇一三年八月十四日から二泊三日で行われた埼玉地区中学KKS・青年キャンプ。十四教会から四十四名(中学高校生二十四名、青年九名、大人十一名)が参加。

今回は四年ぶりに妙高高原にあるロッジ遊山に戻って来た。施設がずいぶんバージョンアップされている。その代表が露天風呂だ。オーナーの山田さんがこの四年の間に手作りした傑作だ。二日目、夜の自由時間に、男性が八人、女性が二人、順番で入らせてもらった。私は夜のスタッフ・ミーティングを終えて、いちばん最後に、一人の青年と一緒に入った。信仰、教会、家族、人生：話していると、時間はアツと言う間に過ぎていく。もつと入っていたかと思いつつ、風呂を後にした。「聖書、いつ読むの? 今でしょう!」。お約束のセリフを

織り込んだ、思わず笑ってしま
うテーマの下、今回の講師は新
潟教会の長倉望牧師。深い心の
闇を抱えたダメ人間に、主イエ

スから「生きよ」との愛（エー
ル）が注がれ、神のご計画を信
じられるようになっていく。そ
こから、命を守り、育てる愛に
生きていく。三回の講演を通し
て、長倉先生はご自分の経験か
らそんな内容の話を話してく
ださった。プロジェクターに映

した視覚教材は、パワーポイン
トを使って徹夜で作られたそ
うだ。「三日月は欠けているか
らこそ美しい」という三日月
の講演の最後の言葉が印象に
残った。

今回もキャンプ・ファイ
ヤーの分がち合ひの中で、中学
高校生、青年が数名、証しをし
てくれた。勇気を出して、自分
の心の闇（苦悩）を語ってくれ
る話には毎回、感動させられ
る。普段はなかなか言えないこ
とを、みんなの前で吐露でき
て、心は少し晴れただろうか。

闇はだれの心にもある。けれ
ども、その闇の中にこそとどい
て来る主イエス・キリストとい
う光を信じて、一人ひとり歩
いていってほしい。

中学・KKS

キャンプに参加して

坂戸いずみ教会 山岡 結

今年も埼玉地区中学・KKS
S キャンプが行われました。去
年と同様中高生と青年との合
同キャンプで、講師には新潟教
会の長倉望牧師をお招きしま
した。青年は私を含め八人が参
加しました。

私は埼玉地区青年部の委員
長として参加しました。執行部
メンバーの協力と周りの方の
サポートのおかげで無事終え
ることができました。このよう
な立場で参加することが初め
てで戸惑いもありましたが、目
一杯楽しむことができました。

キャンプのプログラムは中
高生と青年でほとんど同じで
したが、一部青年独自のプロゲ
ラムを設けました。それは講師
の講演を聞いた後の分団です。
その講演を聞いてどのような
ことを思ったのかを分かち合
いました。またそれだけでな
く、普段の生活の中で感じてい
ることや過去の経験など様々
なことを青年皆で話すことが
でき、豊かな交わりの時間を持
つことができました。その分団

には、講師である長倉先生と久
喜復活集会所の山野裕子先生



かさは変わらないなあとつく
づく思います。これからもそん
なキャンプであってほしいで
す。また今回も中高生と青年が
時間を共にしたことでお互い
に楽しく交流でき、距離も縮
まったように思えました。特に
高校生から「来年は青年として
参加したい」「早く青年になり
たい」など嬉しい声を聞くこ
とができました。中高生が将来
青年部につながってくれるこ
とを願います。

このキャンプに私を招き、た
くさんの素敵な仲間たちに出
会わせてくださった皆さまに
感謝です。来年はもっと多くの
青年にこの輪の中に加わって
ほしいと思います。



お詫びと訂正

前号(四十二―一)の新地
区委員の紹介で、当委員会の
編集のミスで豊川昭夫氏の
挨拶の後半が掲載されませ
んでした。ここにお詫びし再
掲させていただきます。

生きている地区

越谷教会 豊川 昭夫



地区総会に
初めて出席し
たのは今から
丁度二十年前
の一九九三年です。この時、地
区の事は全く分からず、全てが
チンプンカンプンでした。当
然、知っている牧師も信徒もい
ませんでした。

二十年前と今年の総会議案
報告書を見比べると、この二十
年間で約七割の教師が入れ替
わっていました。信徒議員は、
九割以上が替わっています。地
区委員長も地区委員も全員替
わっています。一方、議案報告
書は二倍のページ数になって
います。委員会や教会の数も増
えました。こうして見ると、地
区は生きている！動いてい
る！と実感します。

二十年経って、今は地区内の
ほとんどの教師の名前と顔が
一致します。地区内の事も少し
は分かるようになりました。地
区の一致と連帯のもと、福音の
前進に仕える地区となれます
よう、微力ですが一所懸命に奉
仕したいと思えます。どうぞ宜
しく願います。

役員・伝道委員

研修会報告

埼玉大通り教会 東海林 昭雄

七月十四日(日)午後三時より「現代の伝道・教会におけるケアの意味」と題して、佐々木炎牧師(日本聖契キリスト教団中原キリスト教会牧師・東京基督教大学非常勤講師)を講師にお招きし、研鑽の時を持ちました。出席者は十六教会から四十二名の参加でした。

死亡が一六〇万人に対して、出生が六〇万人となり、逆転現象が起ることが予測されること、また身近な問題である認知症の問題など大変具体的な内容で語っていただきました。

同師は地域の高齢者問題に対してNPOの理事長として、また教会としても取り組んでおり、デイケアセンターや知的障がい者の方々のためのグループホームを運営し、具体的に取り組んでおられます。

今後の教会形成における指針を示して頂いた大変有益な研修会でした。

(伝道委員会委員長)

平和を求める

8・15集会

川口教会 本間 一秀

厚生労働省(二〇一二年度)

の統計によると、生活保護が二一〇万八〇九六八(一五二万八三八一世帯)であるが、実際は二五〇万世帯が保護を必要としているとのこと、貧困率を当てはめると十六パーセント。

「世帯の内容」を二〇一〇年の統計によると、六十五歳以上の女性の五人に一人は一人暮らし。男性では十人に一人。

その他、自己破産や将来の人口の推移が、二〇三〇年には、

死亡が六〇万人に対して、出生が六〇万人となり、逆転現象が起ることが予測されること、また身近な問題である認知症の問題など大変具体的な内容で語っていただきました。

同師は地域の高齢者問題に対してNPOの理事長として、また教会としても取り組んでおり、デイケアセンターや知的障がい者の方々のためのグループホームを運営し、具体的に取り組んでおられます。

今後の教会形成における指針を示して頂いた大変有益な研修会でした。

(伝道委員会委員長)

八月十五日(木)午前十時より「平和を求める8・15集会」が埼玉和光教会で行われました。最初に関東教区「日本基督教団罪責告白」を全員で連祷した後、三浦修牧師の司式により礼拝が捧げられました。

引き続き、被爆体験を持つキリスト者、近藤絃子氏による講演から学びました。近藤氏は、広島流川教会の牧師であった谷本清氏の長女として生まれ、

生後八カ月の時に広島で被爆しました。『ヒロシマ、六十年の記憶』(徳間文庫)の著者であり、国内外で講演を続け、核兵器廃絶を訴えています。また、一方で「国際養子縁組」の活動も行っています。現在は三木志築教会の牧師夫人でもあります。

長らく支援活動をされている東北ヘルプ(仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク)顧問の長嶋清氏によって「被災地の人達に寄り添い仕える」と題して講演されました(九月七日、大宮教会)。

長嶋氏は、長らくアジア学院で働かれたこともあり、小さい者、弱い者と共に生きる姿勢を、被災地の中でも実践されてこられました。その人たちが寄り添う事が仕える事であり、わたしたちの教会はそのために、この地に遣わされていると語られました。集会後、東北ヘルプの活動のために自由献金を捧げました。

この週、越谷で竜巻被害があり、教会員宅に大きな被害がありました。翌日、瓦礫撤去の作業に行きましたが、その場に駆けつけた事に感謝されました。寄り添うことの大切さを改めて教えられました。

(災害対応委員会委員長)

災害対応講演会

「被災地に寄り添うために」

和戸教会 三羽 善次

昨年、福島の福島第一バプテスト教会、佐藤彰牧師の講演会に引き続き、今回は被災地にあつて

今年、主題「高齢化社会と教会ー認知症に向き合う」というテーマで進められました。現在の社会状況とも重なりそのまま私たちの教会にも及んでいる高齢化の現実、さらには認知症との関わりにより、宣教の継承を担うことが困難な現実もあるなかで、教会としてどのように受け入れ、共に生きて行くかを考える時となりました。

第十九回障教懇

(アーモンドの会)

埼玉大通り教会 矢崎 武雄

二〇一三年のアーモンドの会は九月二十三日(月・祝)、埼玉和光教会を会場に開催され



伝道と賛美の集い報告

埼玉大通り教会 東海林 昭雄

門員として佐久間文雄さん(志木教会)、さらに助言者として児島康夫さん(川越キングスガーデン施設長)、司会者として石川栄一牧師(北本教会)によって進められました。パネラーの方々から、それぞれの介護体験を語っていただきました。佐久間さんからは介護現場での経験から、家庭と教会への寄り添い、地区内に認知症相談機能を持つて各個教会を支援出来る部署があればなどの興味ある提言もありました。

今年度は秩父教会を会場に「伝道と賛美の集い」を十月十二日(土)午後二時より開催いたしました。



最近日は日曜日の午後からの開催が続いておりましたが、地区内各教会から駆けつけていただくことを考慮した場合、時間的に厳しいこともあり、土曜日開催となりました。

児島施設長からは長年キリスト者のお立場で、現場で体験されたことからの数々の助言がありました。午後の部は参加者が会場内で小グループに分かれての分かち合いの時を持ちました。閉会礼拝は森 淑子牧師(狭山教会)。

十三教会・五十二名の参加者が与えられ、新来会者もおられ、大変盛り上がりのある祝された集会となりました。

今回、高齢者に視点を合わせ、教会の課題でもあることを取り上げ、参加者とも共有する分かち合いが出来たことで、各個教会でも機会あるごとにこの課題が取り上げられて行くことができればと感じさせられる一日でもありました。参加者は地区内二十八教会百十六名、その他、教区内、他教派、団体、マスコミ合わせて合計一二八名でした。

表題は「歌とおしゃべりコンサート」とし、ゴスペルシンガーのMigawaさんをゲストにお招きしましたが、ゴスペル・ソングや讃美歌をギターで奏でながら、張りのある美しい声で賛美を献げてくださいました。また歌の最中に、中学生時代、不登校になってしまった時の証しや、キリスト・イエスを信じる信仰によって救いと勇気が与えられ、賛美を通し

て主の恵みを伝える働きへと導かれたことなどを証してくれました。

特に今でも毎月、東日本大震災の被災者の方々のところを訪問し、仮設住宅で賛美を献げているそうです。そのような折、あるおじいさんから「演歌を歌えないのか」と言われたことがあったそうですが、それを機に教えてもらったと言う「北国の春」と「上を向いて歩こう」を披露してくれました。教会堂で歌うこの二曲が何故か心に沁み渡り、一番大きな感動を与えたような気が致しました。



Migawaさんの属する教会には拉致被害者の横田めぐみさんの母の早紀江さんが属した。

しておられる由。この喜びの歌声が試練の中にある方々にも届くことを願わざるを得ませんでした。

(伝道委員会委員長)

中学・KKS

秋のフェスタ報告

諸岡 功

十月十四日に川越教会で開催され、中高生十三名、青年三名、大人八名の計二十四名が集まり、夏のキャンプで書いた感想文を記念文集として作成し、カレーパーティーの昼食とキャンプのフォトドキュメン

トの上映、交流会で盛り上がり、閉会礼拝で締めくくりました。

キャンプ参加者も初めて来たお友達も共に楽しむことができ感謝です。今年の文集は、青年の書いたものも含まれ、A4版四十三ページの大作です。各教会に一部ずつ配布しますのでご覧ください。

来年またお会いしましょう。

埼玉地区音楽講習会報告

埼玉新生教会 中村 百合子

台風二十七号、二十八号の同時接近で開催が危ぶまれなが

らも守られ、十月二十六日に今年度二回目の教会音楽講習会をもつことが出来て感謝しています。講習会が終る頃には暖かい秋の陽射しが差し込むほどの天候の回復でした。会場は埼玉新生教会。開会祈禱は会場教会の中村眞牧師。埼玉新生教会の子ども八名の嬉しい出席を含む、二十九名七教会の参加でした。

春の講習会に引き続き、カンバーランド長老教会めぐみ教会牧師の荒瀬牧彦牧師から「今の讃美歌を歌う」と題して、今日世界で歌われている讃美歌を紹介して頂きました。

初めに、讃美歌の基本三柱が「共にするため」「震わせるため」「沁みこませるため」と教





えて頂きました。その後、全曲二十九曲一をたつぷり賛美しました。伴奏はピアノ、オルガンに加えて、ギター、リコーダー、そしてコントラバス!! バラエティーに富んだ賛美の時代でした。

初めに賛美した「みんなで輝く日が来る アイオナ共同体 賛美歌集」(日本キリスト教団出版局)は、スコットランドのアイオナ島にあるアイオナ共同体の讚美歌です。アイオナ共同体は、現代社会が抱えるさまざまな課題に取り組んでいて、共同体の生活の中で生み出された詩は、彩りのある美しい旋律に乗って、現代に生きる私たちに深く訴え、心に沁みこんで

美歌を歌う会となりました。讚美歌には礼拝の流れの中で果たす役割と位置があります。今回の講習会ではそのことを特に意識し、それぞれの讚美歌にふさわしい場面を考えながら賛美しました。

今回歌った讚美歌は、従来の欧米のみならず、アジア、アメリカから学ぶ時代の讚美歌です。普段、歌うことのない、ブラジル、ナイジェリア、スペインの讚美歌も何曲も歌いました。「共に震え、沁みこむ」を味わう賛美の時でした。

きます。

次の讚美歌集「Thuma Mina (トゥマ ミナ) つかわしてください」(日本キリスト教団出版局)は、一九九五年、ヨーロッパのエキュメニカル集が発端で、ドイツでまとめられた歌集です。南アフリカのアルトヘイトに対する「つかわしてください」(南アフリカ語で「Thuma Mina」という祈りの讚美歌集です。続いての「Jumping Jesus」はニュージールランドの新しい創作讚美歌集です(二〇一二年日本讚美歌集学会)。最後に今年出版された讚美歌集から荒瀬先生ご自身が作詞された創作讚美歌を紹介して頂き、まさに「今」の讚美歌を歌う会となりました。



一九五三年に施設の入所者の手園伝道所」を開設しました。



久美愛教会献堂式のご報告

久美愛教会 根本 祐子

当教会の起源は一九二七年故笠井福松氏が伝道の召命を受けて、本郷駒込の坂下町に単立「坂下教会」を設立したことにあります。その後、一九三三年から結核者並びに精神薄弱者のコロニー「港北農園」を立ち上げると共に、病人を救うため伝道所の開設を行いました。しかし、日中事変の拡大により、軍需工場建設のために土地は買収されることになり、立ち退きを要求され、やむなく現在地である旧浦和市三室に移り、一九四〇年に神の教会「久美愛園伝道所」を開設しました。

により教会堂を建設し、「久美愛教会」として、伝道してきました。

二〇〇九年一月、社会福祉法人「久美愛園」に土地を譲渡し、旧教会堂は解体となりました。新しい教会堂は「わたしはこの岩の上にわたしの教会を立てる」の御言葉を握りしめ、本年六月に逝去された代務牧師李秀雲先生の尊いお働きとご尽力、教区のご指導の下、多くの困難を乗り越えて、八月末に完成しました。そこには、いつも神の導きと時がありました。そして九月、代務牧師として中村眞先生(埼玉新生)をお迎えし、礼拝と伝道に励んでいます。神の御業、ご計画を賛



美しつつ、十二月二十四日に献堂式を終えることが出来て感謝します。

特集

光の子どもの家

副施設長 竹花 信恵

児童養護施設光の子どもの家は、さまざまな理由から家族と共に生活することができない子どもたちのための家です。何もないところから「子どものための施設を建てさせて下さい。清めてご用のためにお使い下さい」と祈ることから始めた家であり、キリスト教は私たちの働きの原点です。施設名も「光の子として歩みなさい」という聖書の御言葉にちなんで名付けられました。

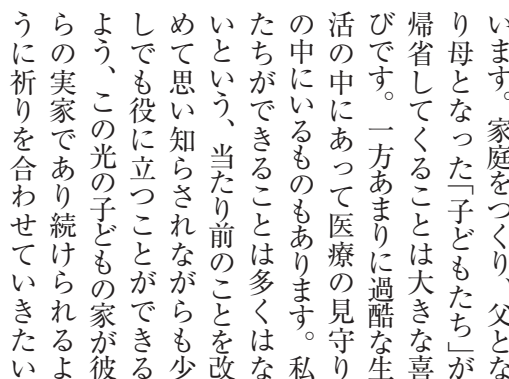


児童福祉法に基づき二歳から十八歳までの子どもたちが、本体施設内に三軒、地域に二軒、合わせて五軒の家で生活しています。定員は三十六名。空きがあることはなく、度重なる入所依頼にこの時代を生きる子どもたちを取り巻く現状の凄まじさを思い知らされま

す。親と住むことができないという中に至った原因は子どもの中にはありません。入所理由はこの数年、虐待以外ないのが現状です。子どもたちが失った「暮らし」を取り戻していくためにできるだけ家庭に近い環境と関係を目指して、小舎型の建物のなかで家庭的養育を基本としています。子どもたちがこころの中で願っているように、再び家庭に、親元に返せるように家族調整することも大きな役割ではありますが、子どものありのままの気持ちに寄り添いながら、一人ひとりと出会うことができたことを感謝しつつ、大切な子ども時代の暮らしをつくり直していくこと、寝食を共にし「生まれてきて良かった。出会えてよかった。」とい



うかけがえのない人と人との関係を豊かにつくっていくことがこの家の働きの中心です。生まれてくることをこころから待ち望まれ、愛されて安心して成長していくことができなかつたことの痛みを、最も小さく最も弱い立場の子どもが負って、ここにたどり着いてきました。子どもにとつて「わけがわからない」ことの連続だったでしょう。「どうしてここにいるのか」など大きな疑問とたくさんの怒り、これからどうなるのかという不安は、いつも私たちの想像を超えています。入所年齢もさまざまであり、抱えている問題はそれぞれ違いますが、日々のあらゆる表現をどのように受けとめていくか、彼らの「受けとめ手」と



早いもので創立三十周年が目前となりました。出会った子どもたちは三桁になりました。あちこちで卒園生が生活しています。家庭をつくり、父となり母となった「子どもたち」が帰省してくることは大きな喜びです。一方あまりに過酷な生活の中にあつて医療の見守りの中にいるものもあります。私たちができることは多くはないという、当たり前のことを改めて思い知らされながらも少しでも役に立つことができるよう、この光の子どもの家が彼らの実家であり続けられるように祈りを合わせていきたい

なつていけるかが私たちの課題でありつづけています。子どもたちが人への信頼を取り戻し、自信をもって社会人として歩み始める、その準備につながるよう毎日を相変わらずの試行錯誤、悩みながらの日々ですが、祈りつつ歩んで参ります。

一九八三年六月の設立準備会の開催から今に至るまで、機関誌「光の子」や刀川和也監督が八年間の歳月をかけて撮影したドキュメンタリー映画「隣る人」を通して、全国の多くの祈りに支えられていることを心より感謝申し上げます。また毎週日曜日には子どもたちはバスや車で日本キリスト教団東大宮教会に行つて礼拝を守り、教会員の方々にはいつも温かく迎えていただいています。イエスさまという幹につながつていることができるのは大きな感謝です。

日常の暮らしの中ではさまざまなことが起こります。今までも何度かどうにもならない、どうにもできないこととぶつかつてきました。そのたびに「祈るしかない」という原点に立ち戻ることには気づかされることの繰り返しがあります。

これからもこの家の歩みの真ん中にイエス様がいて下さり、生涯を通して示して下さいように、そして子どもたちが光の子らしく歩めるように祈り下さいませよう、よろしく御願ひ申し上げます。



地区委員会報告

●二〇一三年度第三回委員会

日時 七月九日(火)
会場 大宮教会
出席 十一名 欠席 なし

【主な報告】

◇委員長報告

*教会・教師の情報
・開所式及び就任式

六月十三日、国際愛伝道所
許昌範牧師
・就任式

七月十四日、鴻巣教会・川染
三郎牧師。七月二十八日、毛
呂教会・澁谷弘祐牧師、澁谷
実季伝道師。八月十一日、小
川教会・末永廣牧師。

・逝去
六月十三日、埼玉中国語礼拝
伝道所・李秀雲牧師。

*関東教区常置委員会報告。
◇五月、六月の会計報告。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇被災地訪問ツアーの件
当初十月に開催を予定して
いたが、より多くの参加者が
集う為に、来年の三月十一日
を中心とした日程を検討。開
催主体である関東教区「東日
本大震災」被災支援委員会
へ提案する。

◇「地区通信」、「埼玉の夜明け」

の執筆者署名の件

社会委員会より「埼玉の夜明
け」の主張の欄の署名は無
記名で発行したいという報
告が出され、今回は社会委員
会の答申を尊重することに
決定。但し、今後再度問題が
発生した場合は地区委員会
で検討協議する。

◇伝道に関する懇談会の件

①日時 十一月十六日(土)、
午前十時半〜午後〇時半
②会場 未定
③内容の詳細については三
役で検討し、次回地区委員会
で決定する。

◇埼玉地区災害対応「講演会」
に関する件
災害対応委員会より埼玉地
区災害対応「講演会」開催に
当たり、開催のための費用要
請があり、これを承認。四万
円を一般会計の予備費より
支出する。

◇地区伝道支援金申請の件
川口教会より、十一月二十四
日に行われる「証しと賛美の
集い」の開催にあたって、埼
玉地区伝道支援金の申請が
あり、これを検討。一部費用
について川口教会に確認を
する為、継続審議。

◇国際愛伝道所支援の件
埼玉地区の六十番目の教

会・伝道所として開設した
国際愛伝道所に対して地区
として今後どの様な支援が
出来るか検討、継続審議。

●二〇一三年度第四回委員会

日時 九月十七日(火)
会場 大宮教会
出席 十一名 欠席 なし

【主な報告】

◇委員長報告

*教会・教師の情報
・九月二十二日、本庄旭教会・
木俣修教師就任式。
・菖蒲教会・細谷武英教師夫
人 愛子姉が八月二十日に
逝去

・九月二日の竜巻による被害
は越谷周辺の教会はなし。自
宅が被災した教員がいる。

*関東教区常置委員会報告。
◇七月、八月の会計報告。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇被災地訪問ツアーの件
開催主体である関東教区「東
日本大震災」被災支援委員
会が全てを取り仕切ること
になり、十月二十八日(月)
〜三十日(水)に行う。この
為、地区としては実務を行わ
ず参加に協力をする。

◇伝道に関する懇談会の件
①日時 二〇一四年一月二

十五日(土)、午前十時〜午後
〇時半。十一月は教区で類似
する集会がある為変更。

②会場 大宮教会
③内容 発題によるシンポ
ジウム。

◇地区伝道支援金申請の件
川口教会より、費用予算の明
細書がまだ届いていない為、
継続審議とする。

◇国際愛伝道所支援の件
伝道所・集会所との懇談会
で現状報告を聞いた上で地
区としてどの様な支援が出
来るか検討する。継続審議。

◇クリスマスプレゼントの件
クリスマス互助金を八教
会・八名、隠退教師十名、総
額十八万円円で執行する。

◇伝道所・集会所との懇談会
の件
①日時 十一月十九日(火)、
午後三時から
②会場 大宮教会

◇新年合同礼拝に関する件
大津健一先生(アジア学院校
長)を説教者候補とする。
新年合同礼拝実行委員会を
立ち上げる。継続審議。

◇特集では「光の子どもの家」
を紹介いただいた。尊い働き
を感謝する。自分の家に居なが
ら、心は家族と遮断している児
童も多いと聞く。主にある兄弟
姉妹の連帯を強めていきたい。

久美愛教会の献堂式が行わ
れ、信仰の熱い思いが見える形
で実現された。火を燃やし続け
た牧者とその意思を手渡しで
つないできた教会員の歴史を
知らされる。

第四十一回埼玉地区教会全
体修養会が開催され、七十五人
の参加者と共に、主の恵みとよ
き交わりの三日間を過ごすこ
とが出きた。中学、高校生も青
年部と場所を同じくして、共に
夏の修養会を印象深く終える
ことが出きた。これらの裏方を
務められた教職、信徒の皆様
に厚く御礼を述べたい。修養会委
員会の今後の展開の中にも、ま
た他の集会のテーマにも多く
取り上げられた課題に、「高齢
化」がある。参加者の体力も考
慮する一方、企画運営する側も
年齢による体力減少との戦い
がある。新しい活力の創造と共
に、ゆつくりしたテンポの企画
も検討されるだろう。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

編集後記

第四十一回埼玉地区教会全
体修養会が開催され、七十五人
の参加者と共に、主の恵みとよ
き交わりの三日間を過ごすこ
とが出きた。中学、高校生も青
年部と場所を同じくして、共に
夏の修養会を印象深く終える
ことが出きた。これらの裏方を
務められた教職、信徒の皆様
に厚く御礼を述べたい。修養会委
員会の今後の展開の中にも、ま
た他の集会のテーマにも多く
取り上げられた課題に、「高齢
化」がある。参加者の体力も考
慮する一方、企画運営する側も
年齢による体力減少との戦い
がある。新しい活力の創造と共
に、ゆつくりしたテンポの企画
も検討されるだろう。

久美愛教会の献堂式が行わ
れ、信仰の熱い思いが見える形
で実現された。火を燃やし続け
た牧者とその意思を手渡しで
つないできた教会員の歴史を
知らされる。

特集では「光の子どもの家」
を紹介いただいた。尊い働き
を感謝する。自分の家に居なが
ら、心は家族と遮断している児
童も多いと聞く。主にある兄弟
姉妹の連帯を強めていきたい。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

◇継続審議とする。

(三井田)